

郵便はがき



2 3 0 -

横浜市鶴見区
北幸尾元一三
今木正子様

梅原龍三郎展

漫て、棟方志功も面白がつたし、お蔭
命せんなくしました、何から何までお手
かけました。これに勧いられたのには仕事せぬ
と思つたは、ゴマメの止巻きをうかしら。
室はみの晩から少し用事多、昨日は一日
寝込みました。今日は大体どうもんと
です。どうもすみれ禮まで、お大事な、

宮崎産のジニースミズ山みかづかこうございました。
なくお手紙が来ますなとおこしや。おれを心待ちしてい
るは思子夫婦がまへお手紙を寄せてました。かく
お手紙に会わぬ事二度あります。二人とも
病氣でとつつかまつて、ひどい目に会いましたが、そく
は不いふながへて、などとゞね年號をあらうことを
知りました。絶食絶水であります。おれの
やうなものはたゞバツを止められたてとせうも
思つてはします。山が家々へ重もへうんつへ
御心康などか御用申せびます。おれは小生の出来事

今日は濱辺さんと村越さんがあつた。あなたから
この年の年賀を貰つ便りと封筒などといふふきました。
女房は折りたまが今月になつて、どうも私の誕生日
プレゼントを2.と想ひ端へしまして、私は今月はなぜか
ボンヤリとして濱辺さんらう覺えぬう是^い非^れ小^ち五^ご砂^さ
とようと用意^しあつた西服^の「宇^う全^{ぜん}」の面^{おもて}万^{まん}人^{じん}署名^{しゆめい}
太^だカ^カの用紙^{ようし}とあ渡^{わた}すところとつぱりと忘れてしまつた。
え小^ち用紙^{ようし}を二枚^{にまい}あ送^{おもて}すが、一枚^{まい}は絶^絶縁^{えん}です。ま
署名^{しゆめい}をあつくりたまひ、お嬢^{お嬢}さん^{さん}の不^ふ用紙^{ようし}をうけ取^{うけとり}た
やうふあた^たいながらもすみません。ふとほお文庫^{ぶんこ}の全^{ぜん}じや全^{ぜん}巻^{まき}
持^もりてしまふ。本定^{ほじ}が不^ふ定^{てい}で、うつろいの本^{ほん}が一冊^{いつ}もうつも持^もり

前略 思ひかけなく謹まひの被へを次へ
恐れ縮しまして、ゆゑに御本は而立と見神の
体験がへども、松子なづかサヨウの聖セラミーの
伝記の一節にて理をよしとが、なぜこれと下すつた
わからません。アーチルワントキ記。ロウナは、
アーチルワントキ記と靈はしきる前説部をも読んで、
執筆者の名を知らないと考案せんと感じましたん。急に
寒くなるちがへますか、そのうちんは秋晴れに来つ
る。10月から11月に朝日山を雪と見ゆつくつとこす。あたまは匂

彼岸へ行つたら、さうかに暗くなりました。先にみせ茎まいり
帰^リの渡辺さんから寄つてくれ、ハワイでの結婚式をさします。
スコモでて思ひ及ばなかつたわい、とか身づアワモ思ひ知
まくら、熱海のあ玉屋りういろのかどうございました。
鎌倉山へ散歩は、四月おはな花見会から帰りますが、
あれ又夏をもつてひま見て下さる、カズウキ、ハトケリ等は

女がねまがせます。いつも心遣ひを感謝します。(紅葉)
カセツト歌詞、すいと面倒をおかけました。よろこんでみほ
聞きました。どうもありがとうございました。うちの機械あ
まりよくないうしとうが残念です。これからも卒業させていただきます。
ラバ水仙が咲きはじめました。